

## 下蒲刈小学校 第3学年 算数科学習指導案

### 単元名：買えますか？買えませんか？

- 1 日時 平成30年6月28日（木）第5校時
- 2 場所 第3．4学年教室
- 3 学年 第3学年（男子2名，女子3名 計5名）
- 4 本単元で育成したい資質・能力  
課題発見・解決力，コミュニケーション力

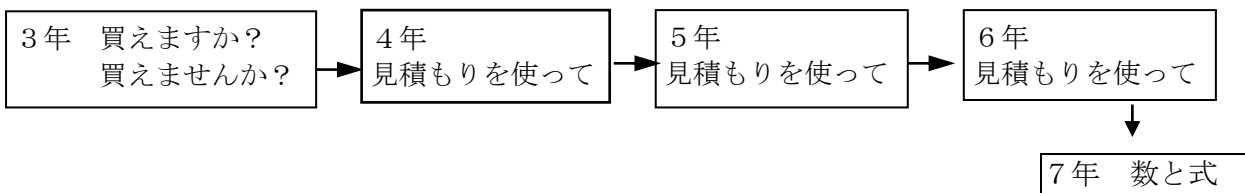
### 単元について

小学校学習指導要領『指導計画の作成と内容の取扱い』には「2－（1）数量や図形についての豊かな感覚を育てるとともに，およその大きさや形をとらえそれらに基づいて適切に判断したり，能率的に処理の仕方を考え出したりすることができるようにすること」と示されている。

本単元では，1つの品物を100円単位を基にし複数の品物が何百円で買えるか買えないかを判断することを通して，見積りの素地を身につけることをねらいとしている。

物の値段をおよそ何百円として考えたり，操作活動を通して説明したりすることで，課題発見・解決力やコミュニケーション力を育成することができる単元である。

【小中一貫教育のつながり】



### 児童の実態

本学年の児童の5月に行った算数に関する意識調査の回答は5人中，以下のようにになっている。

設 問	とても よくあて はまる	あては まる	あまり あてはま らない	あては まらな い
①算数の勉強が好き				
②算数の授業の内容がよくわかる				
③習った計算ができる				
④自分の考えを言葉，図，式を使ってノートに書くことができる				
⑤自分の考えを図や式などを使って説明することができる				

本単元の指導にあたり，児童の実態を把握するためのプレテストを実施した。

問 題	(正答率)		
①だいたい何百円といえますか。(8問)			

本学年の児童は，・・・  
(略)

### 指導改善のポイント

- 主体的に学ぶ児童の育成について
  - ・ 学習の流れをカードで示し見通しをもたせ，目的意識をもって意欲的に学習に取り組めるようにする。
  - ・ 学習ガイド用紙を準備しておく。学習リーダーを中心として自分たちで声をかけあって学習を進めることができたら，評価し認めていく。

- 表現力の育成をめざした言語活動の充実
  - ・ 始めは話型を用いて考えさせ、徐々に自分の言葉で説明ができるように支援していく。
  - ・ 自分の考えを進んで発表し、間違っているにもかかわらずみんなで直し合える支持的風土のある場の設定を行う。
- 本単元で育成したい資質・能力（課題発見・解決力、コミュニケーション力）について
  - ・ 発展問題では、総合的な学習の時間と関連させて実生活に活用できるような買い物場面を想定した問題を提示する。
  - ・ 自力解決した問題の解き方を交流し、集団解決できる場の設定を行う。
  - ・ 4年生の算数科の学習とも関連づけ、振り返りで交流の場を設定する。

## 単元の目標と評価規準

### (1) 単元の目標

ある品物を100円単位で買えるか買えないかの判断を基にして、何個かの品物が何百円で買えるか買えないかを判断し、数の範囲の見積りの素地を身につけることができる。

- ・ 買えるか買えないかの判断をする問題場面に関心を持ち、進んで取り組もうとする。 【関心・意欲・態度】
- ・ ものの値段をおよそ何百円とみて、買えるか買えないかを判断し、そのわけを説明することができる。 【数学的な考え方】
- ・ ものの値段をおよそ何百円とみて、買えるか買えないかを判断することができる。 【技能】
- ・ ものの値段をおよそ何百円とみて、これを活用し判断する方法を理解する。 【知識・理解】

### (2) 評価規準

★資質・能力【課題発見・解決力、コミュニケーション力】

問題を解決する過程において見通しをもち、筋道を立てて考えたり説明したりしている。

算数への 関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての 技能	数量や図形についての 知識・理解
○買えるか買えないかの判断をする問題場面に関心をもち、進んで取り組もうとする。	○ものの値段をおよそ何百円とみて、買えるか買えないかを判断し、そのわけを説明することができる。	○ものの値段をおよそ何百円とみて、買えるか買えないかを判断することができる。	○ものの値段をおよそ何百円とみて、これを活用し判断する方法を理解する。

## 指導と評価の計画

(全1時間)

次	学習内容(時数)	評 価				評 価 規 準	評 価 方 法
		関	考	技	知		
単 元 前	(総合的な学習の時間) 「下蒲刈ピザパーティー」をしようという課題に向けて、どのように学習を進めていくか計画し、学習課題を設定する。						
一	1つの品物が買えるか買えないかの判断を基にして、複数の品物の値段を見積もる。 【本時】	◎	◎	○	○	・買えるか買えないかの判断をする問題場面に関心をもち、進んで取り組もうとする。 ・ものの値段をおよそ何百円とみて、買えるか買えないかを判断し、そのわけを説明することができる。	発言 ワークシート

## 本時の学習

(1) 本時の目標

1つの品物を買うか買えないかの判断を基にして、複数の品物の値段を見積もることができる。

(2) 本時の学習展開

学習活動	指導上の留意事項	評価規準	評価方法
<b>1 教師からの説明を聞く</b>			
<p>(1) 本時の学習の流れを確認する。 (2) 問題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>①みさきさんは、300円持っています。98円ののりと198円のノートを1つずつ買うことができますか。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>(予想される児童の反応)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2つの値段をたして考えるとよい。</li> <li>・<math>98 + 198 = 296</math></li> <li>・買える。</li> </ul> </div> <p>(3) 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;"> <p>買えるか買えないかを考え、そのわけを説明しよう。</p> </div> <p>(4) 基礎問題を考える。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>①買えます。わけは、98円ののりは100円で買えます。198円のノートは200円で買えます。それぞれ100円と200円で買えるので、300円で買えるからです。</p> </div> <p>(5) まとめる。</p> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>1つのねだんをおよそ何百円かと考えて、買えるかどうか考えると分かりやすい。</p> </div>	<p>○学習の流れを掲示しておく。 ○文房具の絵を黒板に掲示し、場面を把握させる。 ○問題文の分かっていることと知りたいことを確認する。</p> <p>○単元終了後に、総合的な学習の時間でピザ作りを行うことを伝えておく。本時のゴールは、「ピザの材料が買えるかどうか理由をつけて答えることができる」ことを伝え、意欲を高める。</p> <p>○買い物の場面なので、「速く・簡単に・正確に(はかせ)」で解くことを条件として提示しておく。 ○百円玉の模型を用意しておく。 ○1つの品物を何百円で買えるか買えないかを判断させ、正確な数値でなくてもよいことを知らせる。</p>	<p>・買えるか買えないかの判断をする問題場面に関心をもち、進んで取り組もうとする。 【関】</p>	<p>・発言</p>
<b>2 理解を確認する</b>			
<p>(1) 確認問題を考える。(自力解決)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>②ひろとさんは、800円持っています。525円のクレヨンと315円のはさみを1つずつ買うことができますか。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>②買えません。わけは、525円のクレヨンは500円で買えません。315円のはさみは300円で買えません。それぞれ500円と300円で買えないので、クレヨンとはさみは800円で買えないからです。</p> </div>	<p>○基礎問題で練習した説明の仕方をもとにして考えさせるようにする。 ○説明することが難しい児童は、話型をヒントカードとして提示する。 ○自分の考えを書いたら、2~3人組で考えを交流させる。</p>	<p>・ものの値段をおよそ何百円とみて、買えるか買えないかを判断し、そのわけを説明することができる。【考】</p>	<p>・ワークシート</p>

3 理解を深める			
<p>(1) 深化問題を考える。</p> <p>③総合的な学習の時間で使うピザの材料を買うために1000円持っています。</p> <p>ピザソース 186円が 1つ          チーズ 298円が 1つ          ピザ生地 495円が1つあります。 買うことができますか。</p>	<p>○実生活に活用できるような際の買い物場面を想定した問題を提示する。</p> <p>○ワークシートに書けた児童から2～3人組で交流しホワイトボードに考えを書かせる。</p> <p>○学習リーダーを中心に、考えを交流させる。</p>		
<p>買えます。わけは、186円のピザソースは200円で買えます。298円のチーズは300円で買えます。495円のピザ生地は500円で買えます。それぞれ200円、300円、500円で買えるので、1000円で足りるからです。</p>			
4 振り返る			
<p>(1) 本時を振り返り、一言感想を言う。</p>	<p>○今日の授業で分かったこと、できたことを振り返る。</p>		

### 単元で育成を目指す資質・能力に関する児童の変容について

- 学習の必要性を感じさせるために総合的な学習「下蒲刈ピザパーティー」と関連づけて、意欲的に取り組めるような単元構成を行った。本学級は3・4年生複式学級なので、縦と横のつながりを考え4年生の算数科「何倍でしょう」の学習とも関連づけて指導を行った。振り返りの場で、3年生は『ピザの材料の値段を考えて、買うことができるか』、4年生は『自分が選んだ材料の分量の割合』について学習したことの交流を行った。
- 実生活と関連を図った問題を設定したことや、算数科で学習したことをピザパーティーにつなげたことで、意欲をもって学習に取り組み、全員がものの値段をおよそ何百円とみて、買えるか買えないかを判断し、ワークシートに自分の考えを根拠をもとに書き、そのわけを説明することができた。
- 複式学級の良さを活かし4年生の手本を見ながら、3年生も学習リーダーを中心に話し合い、自分の考えを交流することができるようになってきている。
- 今後も、問題を解決する場で見通しを充実させるとともに、筋道を立てて考えたり、説明したりする場を充実させることで、本校で育成を目指す資質・能力の【課題発見・解決力、コミュニケーション力】を高めていきたい。